私の思い出写真館

伊勢神宮に思う

村上 仁志
住友信託銀行　特別顧問

お木曳きの様子
（平成19年6月2日　下宮前）

写真は、一昨年の夏、わが故郷で伊勢神宮のお木曳きの行事に参加した時のものである。

この日は20年に一度執り行われる社殿建て替えのための御用材が、大勢の市民により、大きな木製祭車で神宮まで奉曳されるという壮大なお祭りの日である。

私は、その曳き綱を握った瞬間、何とも言えぬ感動が体を走り抜けるのを感じた。

その感動がどこから来るものか分からない。おそらく、神聖な伝統行事に参加して、自分の体の中の日本人としてのDNAが呼び起こされたのかも知れないと、ふと、そんな風にも考えた。

家族と共に　右が筆者

ところで、あまり一般には知られていないが、この式年遷宮で新しく作られるのは、社殿だけではない。御装束神宝のすべてが伝統技法だけで新しく作り変えられる。その20年ごとの繰り返しが、一世紀以上もの長きにわたる文化、技術の伝承を綿々と続けることができた理由という。

また、宮殿の古い用材は末社で再利用されることや、日々のお供えの米、野菜、塩、海産物なども、自給自足で賄われるなど、実に簡素で無駄のない世界である。それに、心が洗われるようなあの深遠で美しい森。

伊勢神宮は知れば知るほど奥の深い世界である。

地球環境問題の高まりや、世界経済の急激な後退で、成長型市場経済が大きく見直されようとしている今日、一切の成長を考えない繰り返しの世界、それでいて心の平安に深くかかわる伊勢神宮の営みは、これからの人間の生き方について、何か大切な示唆を我々に与えてくれているように思えてならない。

「心の時代の到来」と言われる今日、人々の間でお伊勢参りが盛んになる時代を迎えるのかもしれない。